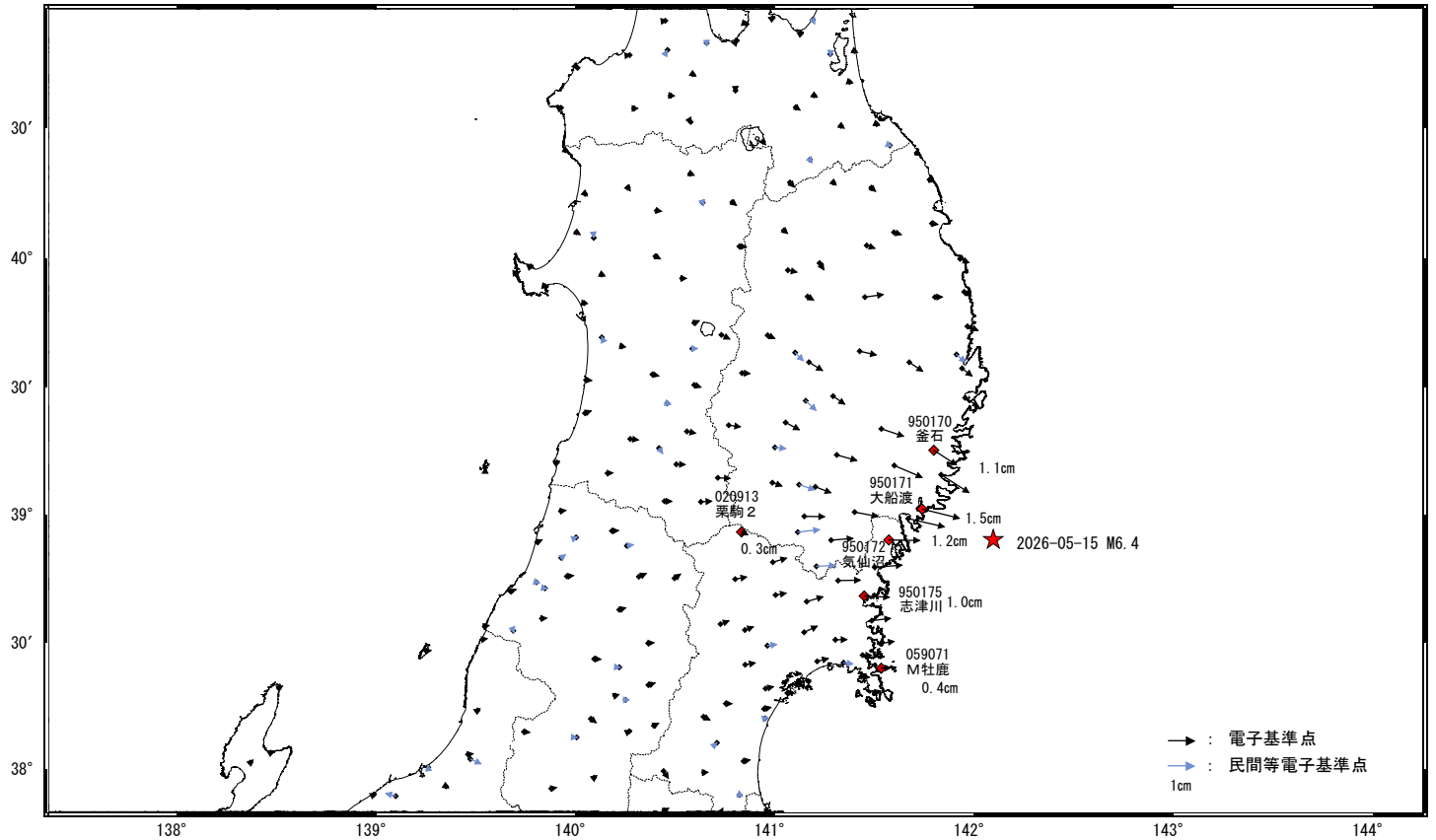


宮城県沖の地震(5月15日 M6.4)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い小さな地殻変動が観測された。
地殻変動(水平)

基準期間: 2026-05-13~2026-05-14 [R5.1:速報解]
比較期間: 2026-05-16~2026-05-17 [R5.1:速報解]



★ 震央

☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)

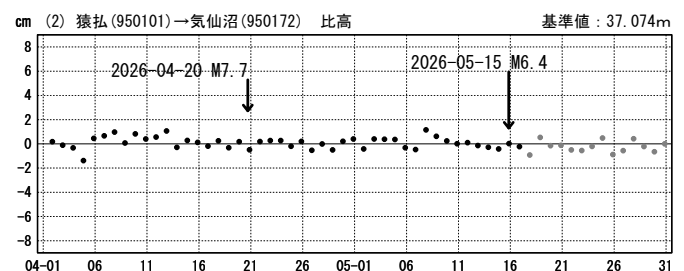
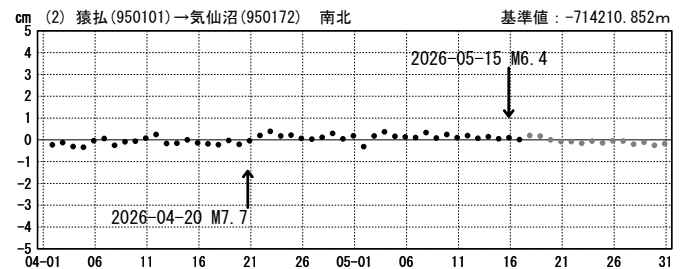
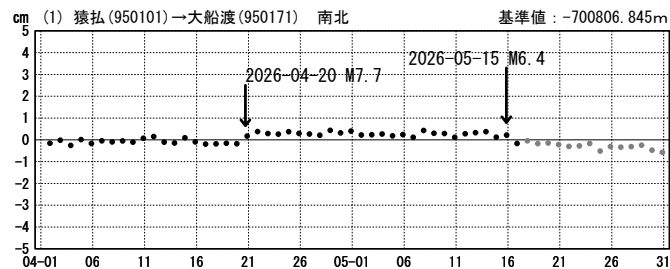
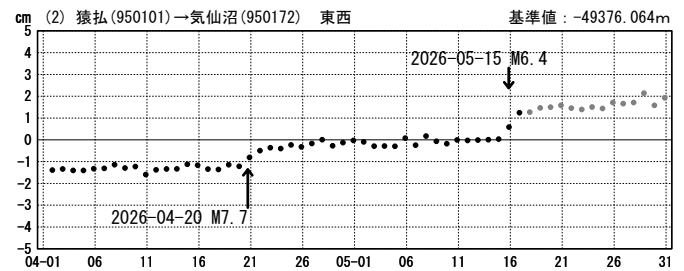
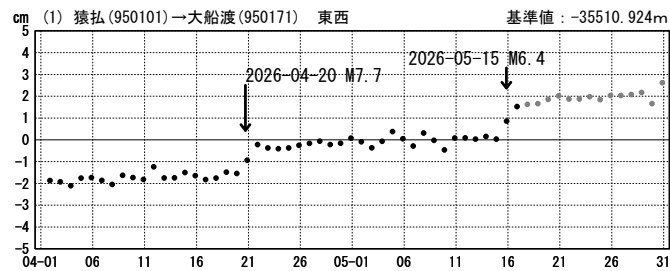
◆ 観測局 (グラフ表示)

※民間等電子基準点: 株式会社NTTドコモ

成分変化グラフ

期間: 2026-04-01~2026-05-31 JST

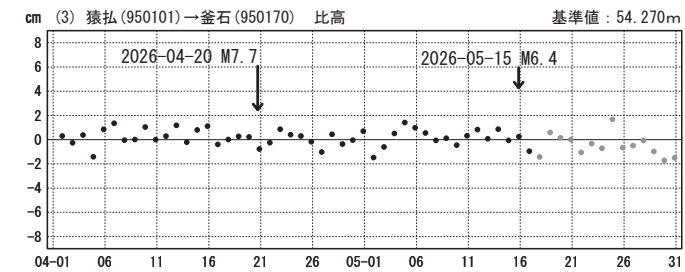
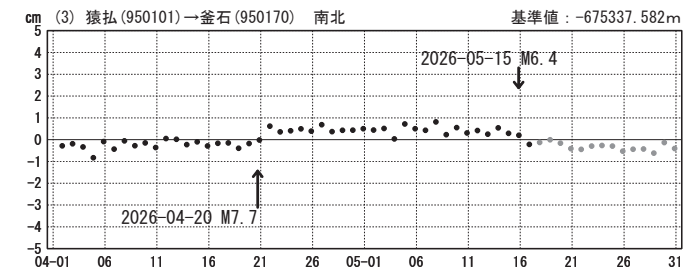
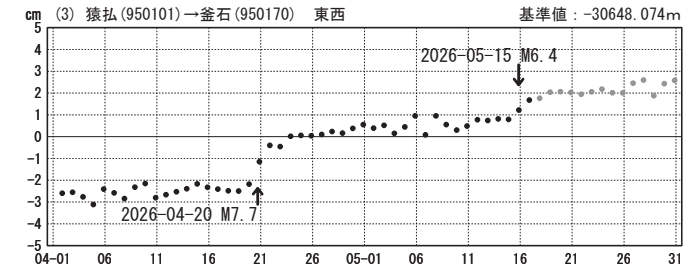
期間: 2026-04-01~2026-05-31 JST



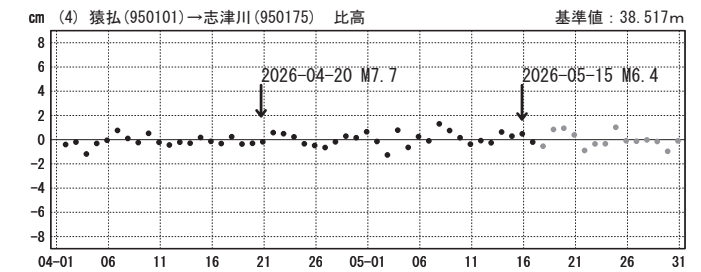
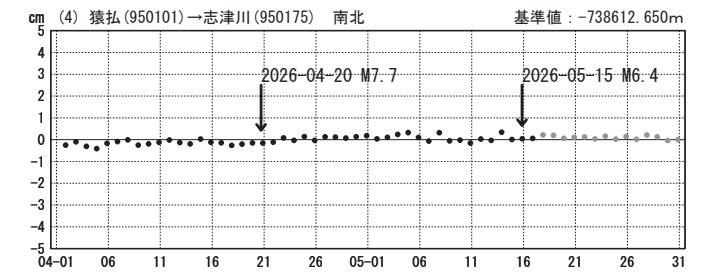
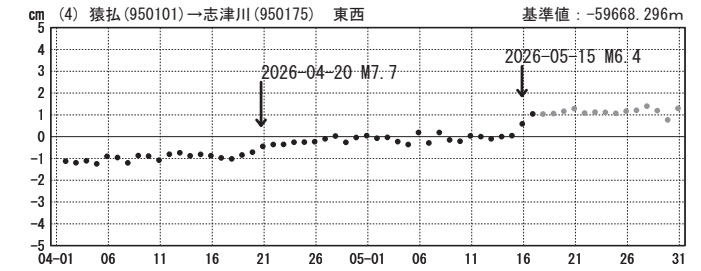
●— [F5.1:最終解] ●— [R5.1:速報解]

成分変化グラフ

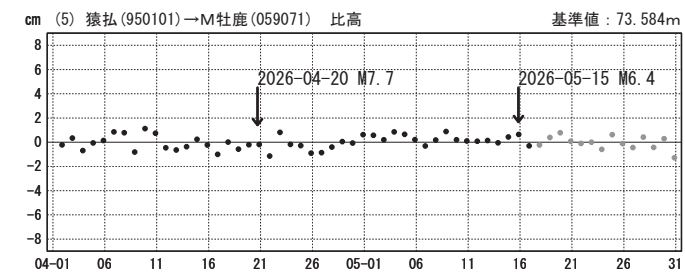
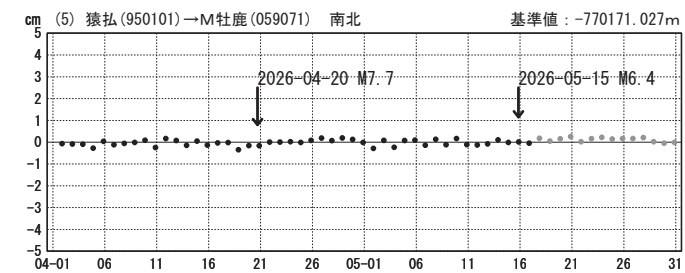
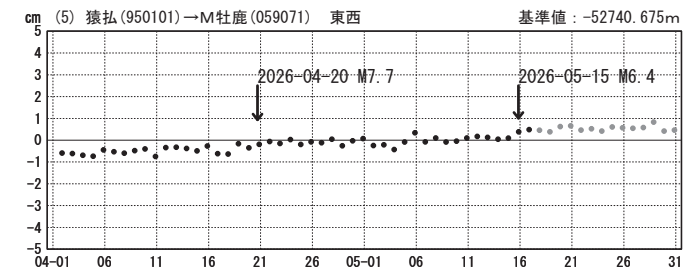
期間：2026-04-01～2026-05-31 JST



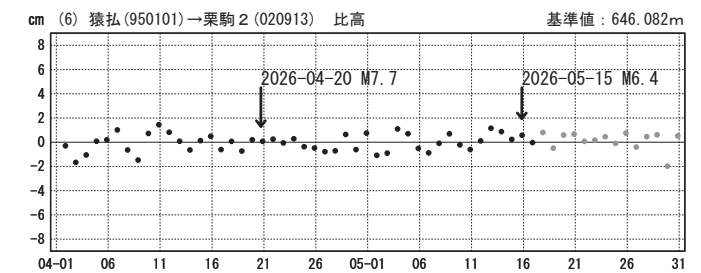
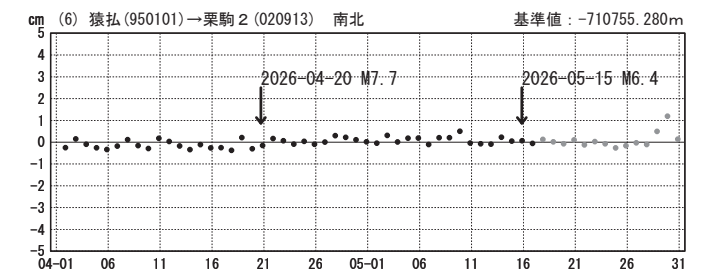
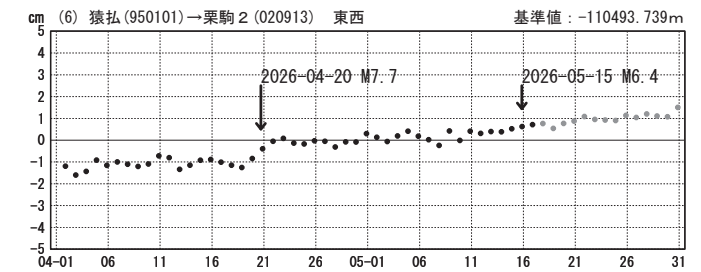
期間：2026-04-01～2026-05-31 JST



期間：2026-04-01～2026-05-31 JST



期間：2026-04-01～2026-05-31 JST

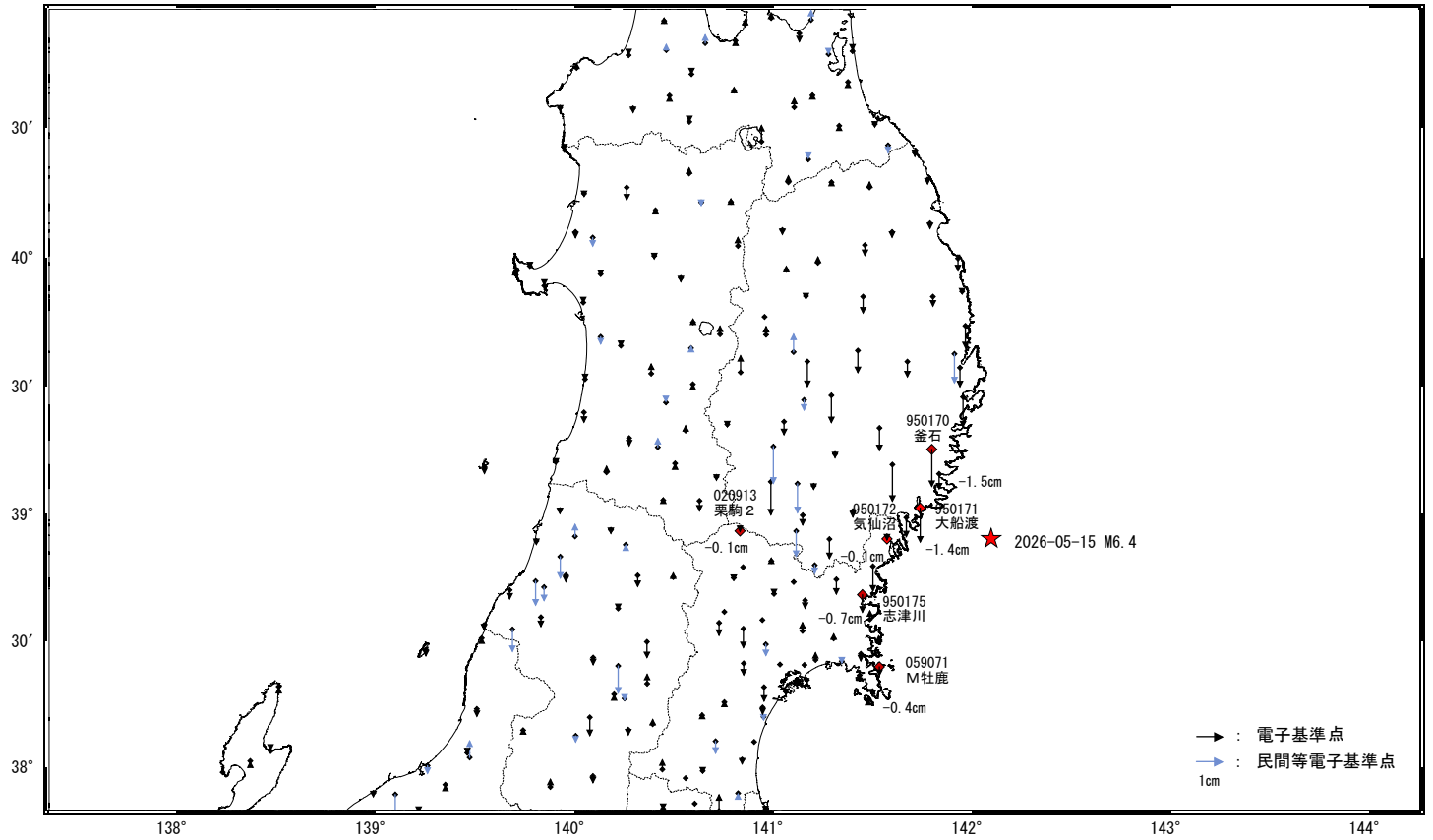


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

宮城県沖の地震(5月15日 M6.4)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い小さな地殻変動が観測された。
地殻変動(上下)

基準期間: 2026-05-13~2026-05-14[R5.1:速報解]
比較期間: 2026-05-16~2026-05-17[R5.1:速報解]



- ★ 震央
- ☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

※民間等電子基準点: 株式会社NTTドコモ

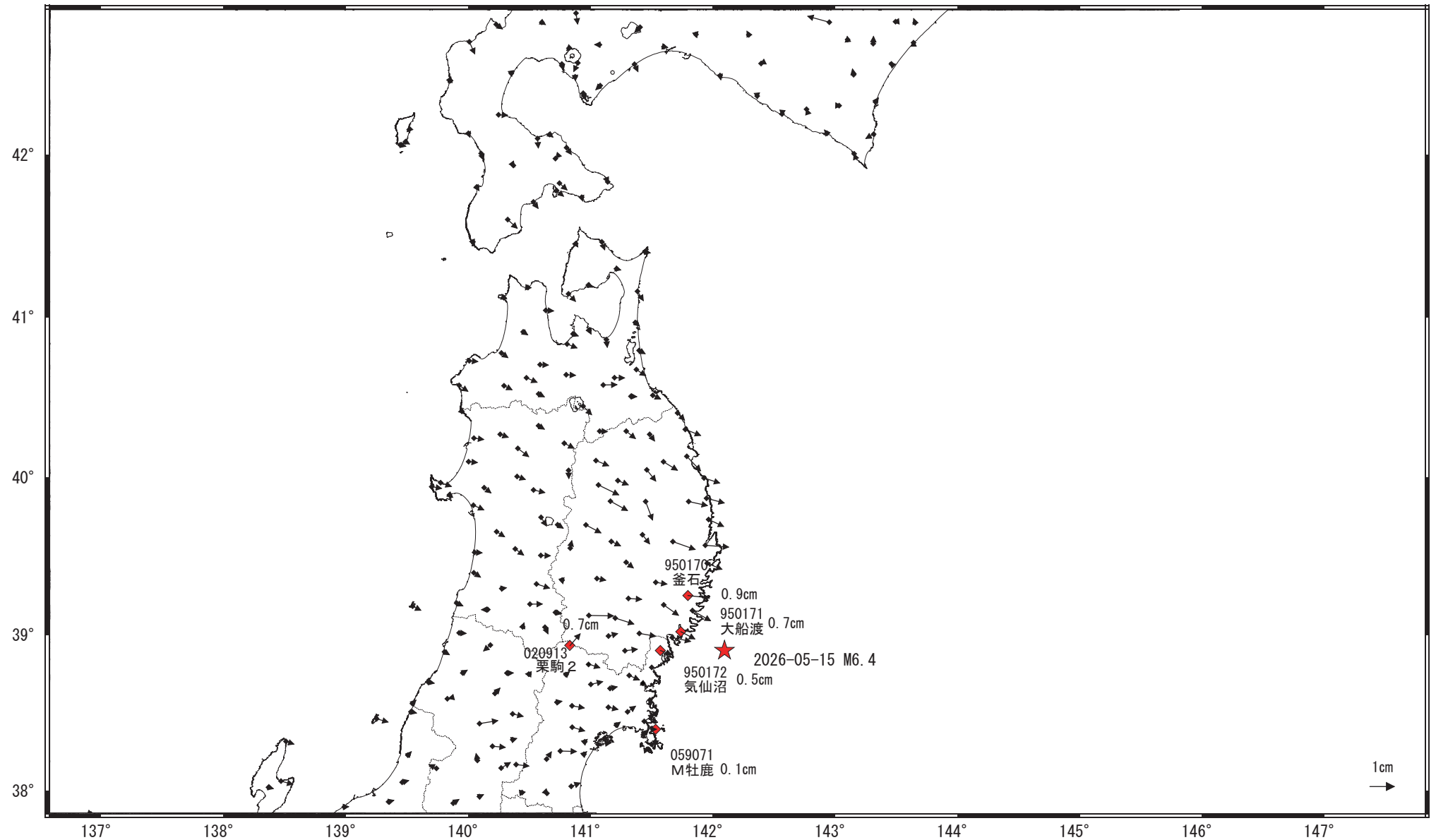
宮城県沖の地震(5月15日 M6.4)後の観測データ(暫定)

この地震後も余効変動が観測されている。

地殻変動(水平)

基準期間:2026-05-16~2026-05-16[R5.1:速報解]

比較期間:2026-05-29~2026-05-31[R5.1:速報解]



★震央 ◆観測局(グラフ表示)

☆固定局:猿払(950101)(北海道)

宮城県沖の地震（5月15日 M6.4）の震源断層モデル（暫定）

- ・ 基準期間：2026年5月12日 09:00—2026年5月15日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 比較期間：2026年5月16日 09:00—2026年5月19日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 固定局：猿払（950101）

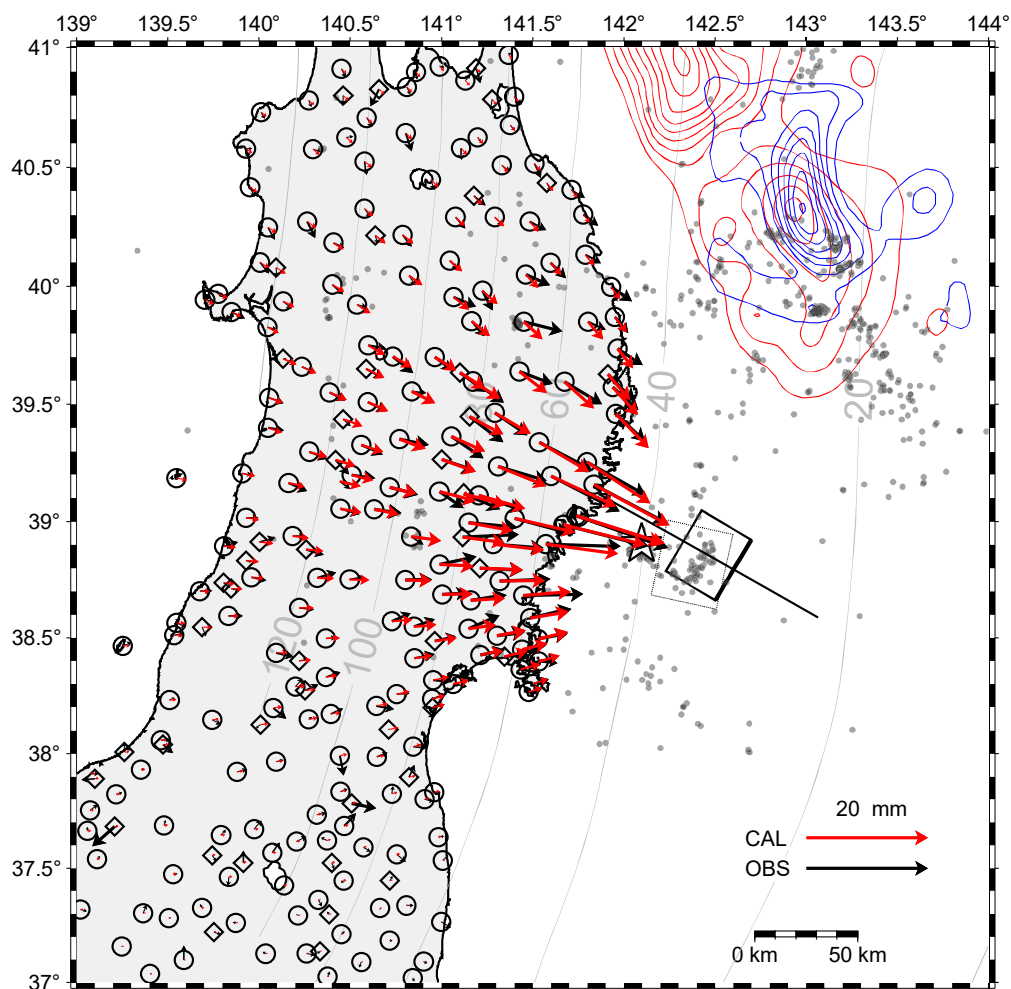


図1 推定された震源断層モデル。矩形実線は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。矢印は水平方向の観測値（黒）及び計算値（赤）。丸が電子基準点、菱形が民間等電子基準点*を表す。赤等値線は1968年十勝沖地震、青等値線は平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他，2001）。破線の四角は、2015年5月13日に発生した地震（M6.8）の矩形断層モデル。星印は今回の地震の震央、灰色の点は本震発生以降から5/18 23:59（JST）までに発生した震源（気象庁一元化震源を使用）。

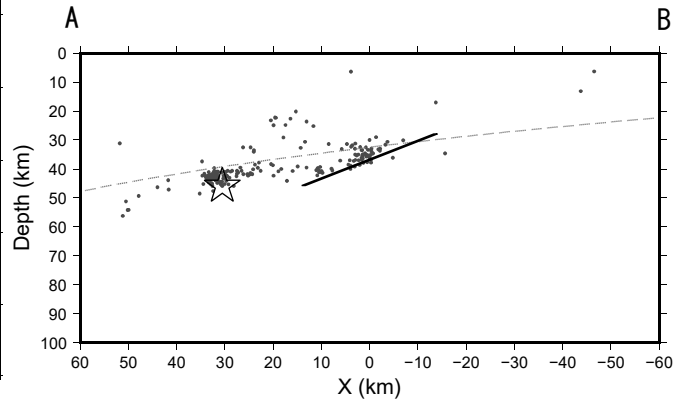
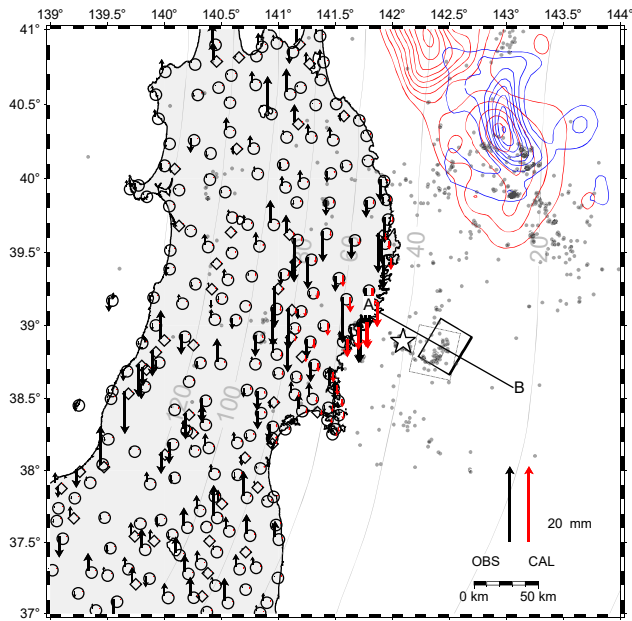
*民間等電子基準点：株式会社NTTドコモ

表1 推定された震源断層モデルパラメータ

緯度 [°]	経度 [°]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [°]	傾斜 [°]	すべり角 [°]	すべり量 [m]	M _w
38.921 (0.04)	142.699 (0.04)	28.0 (3.5)	33.5 (3.4)	32.6 (3.2)	209.3 (13.1)	32.9 (3.2)	101.5 (16.3)	0.53 (0.08)	6.84 (0.02)

- ・ VRは85.6%。
- ・ マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を用いてモデルパラメータを推定した。
- ・ 位置は断層の左上端を示す。括弧内は誤差（1σ）を示す。
- ・ M_wと断層長さ・断層幅の関係をスケーリング則（Strasser et al. 2010）で拘束。
- ・ M_wの計算においては、剛性率を40 GPaと仮定。

【参考 1】鉛直方向の変位及び断面図



(左図) 矩形実線は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。矢印は鉛直方向の観測値（黒）及び計算値（赤）。丸が電子基準点、菱形が民間等電子基準点*を表す。赤等値線は1968年十勝沖地震、青等値線は平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他, 2001）。破線の四角は、2015年5月13日に発生した地震（M6.8）の矩形断層モデル。星印は今回の地震の震央、灰色の点は本震発生以降から5/18 23:59（JST）までに発生した震源（気象庁一元化震源を使用）。

*民間等電子基準点：株式会社NTT ドコモ

(右図) 傾斜方向(A-B)に射影した断層面（太線）及び震源分布の投影（灰色の点）。傾き下がる方向が正。星印は震源の投影。破線はプレート境界面（Nakajima and Hasegawa 2006, Kita et al. 2010）。

【参考 2】事後確率分布（コーナープロット）

